

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2023年11月10日
【四半期会計期間】	第52期第2四半期（自2023年7月1日 至2023年9月30日）
【会社名】	株式会社ライフドリンク カンパニー
【英訳名】	LIFEDRINK COMPANY, INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岡野 邦昭
【本店の所在の場所】	大阪府大阪市北区梅田三丁目3番10号
【電話番号】	06-6453-3220
【事務連絡者氏名】	執行役員経営管理本部長 清水 大輔
【最寄りの連絡場所】	大阪府大阪市北区梅田三丁目3番10号
【電話番号】	06-6453-3220
【事務連絡者氏名】	執行役員経営管理本部長 清水 大輔
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第51期 第2四半期累計期間	第52期 第2四半期連結 累計期間	第51期
会計期間		自2022年4月1日 至2022年9月30日	自2023年4月1日 至2023年9月30日	自2022年4月1日 至2023年3月31日
売上高	(百万円)	15,282	20,460	30,250
経常利益	(百万円)	1,671	2,864	3,050
四半期純利益又は親会社株主に帰 属する四半期(当期)純利益	(百万円)	1,149	1,973	2,076
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	-	2,303	2,117
純資産額	(百万円)	7,072	10,117	8,157
総資産額	(百万円)	16,674	25,345	22,165
1株当たり四半期(当期) 純利益	(円)	90.78	151.95	162.57
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	88.02	150.97	158.94
自己資本比率	(%)	42.4	39.9	36.8
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,743	2,183	3,774
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,616	3,301	5,003
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,495	695	1,659
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	(百万円)	2,532	2,529	4,326

回次		第51期 第2四半期会計期間	第52期 第2四半期連結 会計期間
会計期間		自2022年7月1日 至2022年9月30日	自2023年7月1日 至2023年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	50.11	78.93

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、第52期第2四半期連結累計期間において、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 当社は、第51期第4四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しているため、第51期第2四半期連結累計期間及び会計期間に代えて、第51期第2四半期累計期間及び会計期間について記載しております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況

経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間(2023年4月1日~2023年9月30日)におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大による行動制限の緩和が進み、経済活動の正常化による個人消費の持ち直しの動きが見られました。一方、資源価格の高騰や為替相場の円安進行を背景として、食料品を含む商品やサービスの価格上昇が進行するなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような事業環境のもと、当社は「高品質で価格競争力を持った商品」の供給を強みとして、自社飲料各工場の工場稼働率向上による生産量の拡大及び販売先の確保に努めてまいりました。また、子会社化したニッソービバレッジ株式会社とのシナジー効果の最大化に向けた取り組みや、EC/D2C(1)モデルへのチャレンジを進めてまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は売上高が20,460百万円(前年同期比33.9%増)、営業利益が2,910百万円(同72.3%増)、EBITDA(営業利益+減価償却費)が3,467百万円(同55.4%増)、経常利益が2,864百万円(同71.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益が1,973百万円(同71.7%増)となりました。(2)

1 D2C:「Direct to Consumer」の略。消費者に対して製品を直接販売するビジネスモデルのことを指します。

2 当社グループは、2023年3月期第4四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しております。そのため、対前期増減率は2023年3月期第2四半期累計期間の個別経営成績と2024年3月期第2四半期連結累計期間の連結経営成績との比較で記載しております。

財政状態の状況

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は10,707百万円で、前連結会計年度末に比べて197百万円減少しております。これは、主に「現金及び預金」が1,797百万円減少、「受取手形及び売掛金」が1,389百万円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産は14,638百万円で、前連結会計年度末に比べて3,377百万円増加しております。これは、主に「建設仮勘定」が2,440百万円増加、「土地」が1,388百万円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は6,966百万円で、前連結会計年度末に比べて1,431百万円減少しております。これは、主に「短期借入金」が3,000百万円減少したことによるものであります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債は8,262百万円で、前連結会計年度末に比べて2,651百万円増加しております。これは、主に「長期借入金」が2,809百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は10,117百万円で、前連結会計年度末に比べて1,959百万円増加しております。これは、主に「利益剰余金」が「親会社株主に帰属する四半期純利益」の計上に伴い1,973百万円増加し、配当金の支払いに伴い363百万円減少したことによるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は2,529百万円で、前連結会計年度末比で1,797百万円減少しております。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは2,183百万円の収入となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益2,857百万円、減価償却費556百万円、売上債権の増加額1,391百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは3,301百万円の支出となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出3,212百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは695百万円の支出となりました。これは、主に短期借入金の返済による支出3,000百万円、長期借入れによる収入3,300百万円、配当金の支払いによる支出363百万円によるものであります。

(2) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について、重要な変更はありません。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	44,900,000
計	44,900,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,999,195	12,999,795	東京証券取引所 プライム市場	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式であ り、単元株式数は 100株であります。
計	12,999,195	12,999,795	-	-

(注) 1. 2023年10月1日から2023年10月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式数が600株増加しております。

2. 「提出日現在発行数」欄には、2023年11月1日から2023年11月10日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

3. 2023年6月26日をもって、当社株式は東京証券取引所スタンダード市場から同取引所プライム市場に市場変更しております。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年7月1日～ 2023年7月28日(注)1	8,400	12,985,040	0	1,071	0	971
2023年7月28日(注)2	10,555	12,995,595	3	1,075	3	975
2023年7月29日～ 2023年9月30日(注)1	3,600	12,999,195	0	1,075	0	975

(注) 1. 新株予約権の行使による増加であります。

2. 譲渡制限付株式報酬としての新株式発行による増加であります。

発行価格 3,410円

資本組入額 1,705円

割当先 当社の取締役(監査等委員である取締役を含む。)5名及び従業員3名

3. 2023年10月1日から2023年10月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が600株、資本金及び資本準備金がそれぞれ0百万円増加しております。

(5)【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
SUNRISE CAPITAL , L.P. (常任代理人 SMBC日興証券 株式会社)	PO BOX 2681 CRICKET SQUARE HUTCHINS DRIVE, GEORGE TOWN, GRAND CAYMAN, CAYMA N ISLANDS. KY1-1111 (東京都千代田区丸の内1丁目5番1号 新丸の内ビルディング)	1,386	10.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会 社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,270	9.7
SUNRISE CAPITAL (NON-US), L.P. (常任代理人 SMBC日興証券 株式会社)	PO BOX 2681 CRICKET SQUARE HUTCHINS DRIVE, GEORGE TOWN, GRAND CAYMAN, CAYMA N ISLANDS. KY1-1111 (東京都千代田区丸の内1丁目5番1号 新丸の内ビルディング)	1,235	9.5
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	860	6.6
田中将雄	大阪府大阪市淀川区	682	5.2
CEPLUX - THE INDEPENDENT UCITS PLATFORM 2 (常任代理人 シティバンク、エヌ・ エイ東京支店)	31, Z.A. BOURMICH, L-8070, BERTRANGE, LUXEMBOURG (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	605	4.6
BNY GCM CLIENT A CCOUNT JPRD AC IS G(FE-AC) (常任代理人 株式会社三菱UFJ 銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2丁目7番1 号)	576	4.4
田中利子	兵庫県宝塚市	440	3.3
田中頼成	兵庫県宝塚市	322	2.4
田中頼広	大阪府堺市西区	287	2.2
湯川照美	東京都新宿区	287	2.2
計	-	7,955	61.2

(注) 1. 上記日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数のうち、信託業務に係る株式の総数は1,270千株であります。

2. 上記株式会社日本カストディ銀行(信託口)の所有株式数のうち、信託業務に係る株式の総数は860千株であります。

3. 2023年9月19日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ及びその共同保有者である三菱UFJ信託銀行株式会社、三菱UFJ国際投信株式会社、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社が2023年9月11日現在でそれぞれ以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	株式 46,400	0.36
三菱UFJ国際投信株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目12番1号	株式 567,900	4.37
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目9番2号	株式 36,600	0.28

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,995,000	129,950	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 4,195	-	-
発行済株式総数	12,999,195	-	-
総株主の議決権	-	129,950	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
取締役	取締役管理本部長	新 敬史	2023年9月1日

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

なお、当社は前第4四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しているため、四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書、並びに四半期連結キャッシュ・フロー計算書に係る比較情報を記載しておりません。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,326	2,529
受取手形及び売掛金	4,397	5,786
商品及び製品	933	873
仕掛品	155	95
原材料及び貯蔵品	792	857
その他	330	593
貸倒引当金	30	28
流動資産合計	10,905	10,707
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,131	3,098
機械装置及び運搬具(純額)	3,279	3,214
土地	1,529	2,917
建設仮勘定	1,088	3,528
その他(純額)	863	723
有形固定資産合計	9,892	13,481
無形固定資産	137	210
投資その他の資産	1,231	946
固定資産合計	11,260	14,638
資産合計	22,165	25,345

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,592	2,010
短期借入金	3,000	-
1年内返済予定の長期借入金	964	969
未払法人税等	380	563
賞与引当金	72	110
役員賞与引当金	12	6
その他	2,374	3,305
流動負債合計	8,397	6,966
固定負債		
長期借入金	5,080	7,890
退職給付に係る負債	24	20
その他	505	351
固定負債合計	5,610	8,262
負債合計	14,007	15,228
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,071	1,075
資本剰余金	1,254	1,269
利益剰余金	5,791	7,401
自己株式	0	0
株主資本合計	8,117	9,746
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	1
繰延ヘッジ損益	40	369
その他の包括利益累計額合計	40	370
純資産合計	8,157	10,117
負債純資産合計	22,165	25,345

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
売上高	20,460
売上原価	11,814
売上総利益	8,645
販売費及び一般管理費	5,734
営業利益	2,910
営業外収益	
受取利息及び配当金	0
為替差益	15
持分法による投資利益	7
その他	15
営業外収益合計	38
営業外費用	
支払利息	29
支払手数料	29
市場変更費用	24
その他	1
営業外費用合計	84
経常利益	2,864
特別利益	
固定資産売却益	0
特別利益合計	0
特別損失	
固定資産除却損	8
特別損失合計	8
税金等調整前四半期純利益	2,857
法人税、住民税及び事業税	507
法人税等調整額	376
法人税等合計	884
四半期純利益	1,973
非支配株主に帰属する四半期純利益	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,973

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

当第2四半期連結累計期間
(自2023年4月1日
至2023年9月30日)

四半期純利益	1,973
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	1
繰延ヘッジ損益	328
その他の包括利益合計	330
四半期包括利益	2,303
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	2,303
非支配株主に係る四半期包括利益	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	2,857
減価償却費	556
引当金の増減額(は減少)	31
固定資産売却損益(は益)	0
固定資産除却損	8
売上債権の増減額(は増加)	1,391
棚卸資産の増減額(は増加)	54
仕入債務の増減額(は減少)	451
その他	92
小計	2,475
利息及び配当金の受取額	0
利息の支払額	29
法人税等の支払額	262
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,183
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	3,212
その他	89
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,301
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の返済による支出	3,000
長期借入れによる収入	3,300
長期借入金の返済による支出	484
リース債務の返済による支出	133
配当金の支払額	363
その他	13
財務活動によるキャッシュ・フロー	695
現金及び現金同等物に係る換算差額	16
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,797
現金及び現金同等物の期首残高	4,326
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,529

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

当第2四半期連結累計期間
(自2023年4月1日
至2023年9月30日)

荷造運搬費	3,251百万円
保管料	414
賞与引当金繰入額	85

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高は、四半期連結貸借対照表に掲記されている現金及び預金残高と一致しております。

(株主資本等関係)

当第2四半期連結累計期間(自2023年4月1日 至2023年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月28日 定時株主総会	普通株式	363	28	2023年 3月31日	2023年 6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、ドリンク・リーフ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は以下のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	151円95銭
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	1,973
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益(百万円)	1,973
普通株式の期中平均株式数(株)	12,984,882
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	150円97銭
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	-
普通株式増加数(株)	83,627
(うち、ストック・オプション(株))	(83,627)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な変動があったもの の概要	-

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月10日

株式会社ライフドリンク カンパニー

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平岡 義則

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高井 大基

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ライフドリンク カンパニーの2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ライフドリンク カンパニー及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象に含まれていません。